

広報

ただみ

2

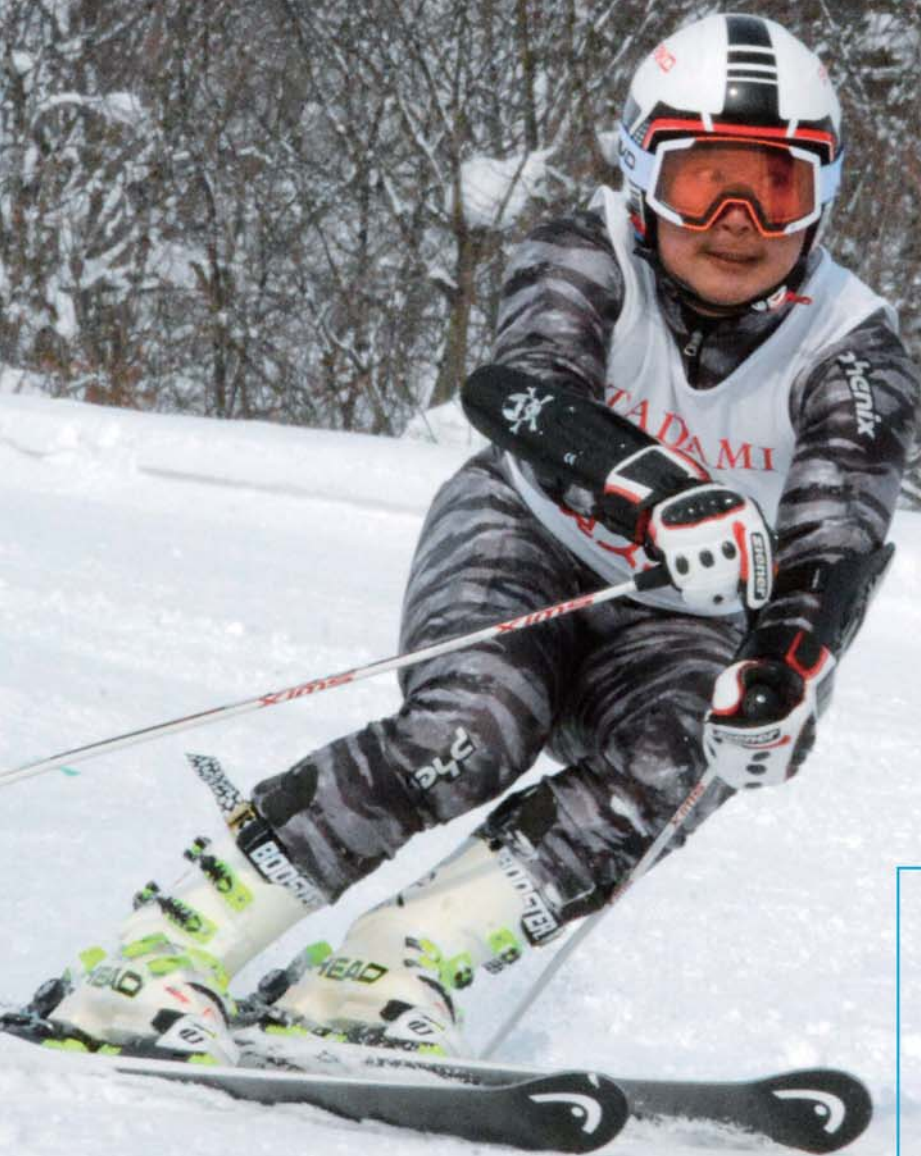
2015 月号

No. 537
平成27年2月10日

「自然首都・只見」学術調査 研究助成事業成果発表会…2～5

平成27年只見町新年交歓会 他…………… 6～7

町の話／南会津ふるさとワークステイ事業… 8～9



今月の表紙

県スキー連盟公認の「第42回只見毎日杯
ジャイアントスラローム大会」が1月25日に
只見スキー場で行われました。この日は天
候にも恵まれ、参加した60人の出場者は、
自分のベストを尽くし競技に臨んでいました。
(写真は成年3部優勝の齋藤聡さん)

「自然首都・只見」学術調査 研究助成事業 成果発表会

ユネスコエコパーク登録後 初の成果発表会!!

「自然首都・只見」学術調査研究助成事業の成果発表会を1月31日に朝日振興センターを会場に行いました。今年度はユネスコエコパーク登録後初の成果発表会となりましたが、この日は7件の学術調査研究の成果発表が行われ、会場には町民はもちろんだ外からも多くの方が会場に押し寄せ、昨年を上回る約80人が聴講しました。

昨年度までは、おもに只見の植物について学術調査研究が行われ発表されてきましたが、今年度は町内で確認された新種のタダミハコネサンショウウオについての説明や、身近な昆虫アリのついてなどの発表も行なわれました。

7名の研究者から発表された内容はどれも非常に興味深いもので、発表が終わると聴講者から多くの質問や

疑問が投げかけられました。

今回、発表された研究成果の主な内容を次のとおり皆さんにご紹介させていただきます。



▲発表者1名につき20分の発表と10分の質問の時間が設けられましたが、今回は質問が多くどの発表者も時間が足りなくなりました

「ユキツバキとヤブツバキは別種なのか？
形態と遺伝子から探る種分化」

新潟大学院 自然科学研究科 三浦 弘毅 さん

目的

生物には、種分化という現象が存在し、これはある一つの種が2つ以上に分かれる現象のことを指す。

今回の調査は、日本全国の海岸沿いに分布するヤブツバキと日本海側多雪地に分布するユキツバキの2種の形態と遺伝的違いを比較して種分化の程度について考察することを目的とした。具体的には形態的違い（花形態、花色）、遺伝的違い（葉緑体DNA）、形態と遺伝的違いは一致するのかを調査することにした。

調査するにあたり、外部形態の比較として花サンプルをヤブツバキ6集団とユキツバキ7集団（只見町を含む）、葉緑体DNAは日本全国計65集団から採取した。

結果と考察

花形態計測の結果、ヤブツバキとユキツバキではおしべやめしべの長さや花の色が異なり、両者は大きくヤブツバキ型とユキツバキ型の2つのグループに分かれた。

只見町では全ての項目でユキツバキ型となり、遺伝的解析でも只見町はユキツバキの系統に入った。

今回の調査の結果、ヤブツバキとユキツバキは形態的違いと遺伝的違いから2つに分けることが可能であると示唆されたが形態と遺伝的グループが互いに一致しない地域も見られ、両種は種分化の途中であると考えられた。また、只見のユキツバキは、ヤブツバキと分布が分断されてから両種が交雑していない可能性が示唆された。



「只見における雪食斜面が溪流沿いに 成立する森林の組成や構造に与える影響」

横浜国立大学院 環境情報 近藤 博史 さん



目的

日本有数の豪雪地であり、険しい山岳地帯である只見地域には、この地域特有な自然景観である「雪食地形」が卓越している。一方で只見周辺は、積雪環境により水資源が豊富であることや、険しい山岳地帯の為、自然度の高い溪流が多く存在し、様々な水辺植生が発達している。国内において水辺植生に関する研究は多く行われているが、水辺植生と積雪環境を関連付けた研究例は非常に少ない。

今回の研究は、只見町内での地域に雪食地形が発達しているか、また地質や積雪との関連性を明らかにし、雪食地形の分布状況により、その谷底部に成立する溪畔林の組成や構造の違いを明らかにした。

結果と考察

雪食地形は凝灰岩、流紋岩、メランジュの地質で多い傾向があった。積雪量との関係性では、最大積雪深200〜250cmの地域に雪食地形が多く分布した。また、地域ごと及び雪食地形の傾度で樹木の種数を比較した結果、低木層では、雪食地形のよく分布する地域において種数が高かった。

今回の調査で、積雪量と地質条件が合わさることで雪食地形が発達しているのだと考えられた。また只見地域は、複雑な地質や豪雪環境などの特異的な環境が様々なモザイク的な景観を作り出し、只見地域だけの溪畔林をみても様々なタイプが見られる要因になっていると考えられた。

「積雪環境下でのブナの成長」

東京大学院 理学系研究科附属日光植物園 宮下 彩奈 さん



目的

只見町をはじめ日本海側の山地にはブナが優先した森林がみられるが、ブナがどのような環境まで生育可能かを定量的に評価した例はほとんどなく、それゆえ他種との比較も困難であった。そこで、光の強さや積雪量・地形等からブナの成長可能性を予測することを目標に、2012年度から調査をしてきた。

今年度は、地形や積雪量がブナの幹に与える影響と、幹が破壊されずに成長できる積雪環境の解明について取り組むこととし、積雪期間にブナの幹が受ける変形量(ひずみ)の調査対象拡大と、幹の直径成長の測定を行った。本発表では今年度の成果を中心に、3年間の調査成果をまとめて報告する。

結果と考察

今年度の調査では、積雪深1m前後の急斜面や多雪だが平坦な場所では、直径の増大と共に幹の湾曲が困難になり、破壊の危険が増すが、直径10cm前後まで太れば雪圧に對抗できるようになることが分かった。

3年間の調査の結果として、日本海側のブナの生育可能性について、まず光環境で生育続行の可否が決まり、ある程度まで生育した後、幹が積雪の作用に耐えられるかどうか分布の決定要因になると考えられる。本研究ではブナの生育条件の解明をとおして、光や積雪が樹木の成長に与える効果の評価方法を検討してきたともいえる。

「只見町より記載された

新種タダミハコネサンショウウオ」

国立科学博物館 吉川 夏彦 さん



目的

昨年の9月、只見町に生息する新種のサンショウオに関する論文が国際誌に掲載されタダミハコネサンショウオ(以下タダミハコネ)と名付けられたこの新種のサンショウオは新聞でも報道され一般にも広く知られることとなった。それまで4種と思われていた只見のサンショウオ・イモリ類はタダミハコネを含めて合計5種となった。

しかし、タダミハコネは分布範囲や生息密度など不明な点が多い。近年希少生物の乱獲が問題となっており、本種も保全策の計画を立てる為、分布範囲と生息状況の把握が急務である。そこで本年度は主に只見町内のタダミハコネの分布・生息状況把握のため調査を行った。

結果と考察

2014年7月～11月の間に27地点で合計219個体のハコネサンショウオ属を捕獲し、DNAによる分析の結果、75個体がタダミハコネであり、27調査地点のうち16地点で確認された。

今回の調査で、タダミハコネは西側の新潟県境に近い地域に生息域が偏っている可能性が示唆された。また、タダミハコネはハコネサンショウオと同じ場所で生息していることが示された。一般に生息的に似通った近縁種同士では生活空間や餌など資源をめぐる競争が起こり共存が難しいと考えられるが、どのような仕組みで共存しているのか今後の調査によって明らかにしていきたい。

「只見のヒメサユリ

—3年間の調査で明らかになったこと—

首都大学東京 大曾根 陽子 さん



目的

ヒメサユリは町内のいたるところで見られるので、町民の皆さんにとっては珍しい植物ではないかもしれませんが、実際にはヒメサユリは世界の中でも日本にしかないユリで、さらに日本でも福島・新潟県境地域や会津地方から山形県にかけてと宮城県南部にしか生息しない希少な植物なのです。

なぜヒメサユリは限られた場所しかないのか。生息地は雪と関係があるのか。ヒメサユリが多雪地で生きるための特別な性質を持っているのかなど考え3年間調査をしてきました。疑問が全て解決したわけではありませんが、多くのことが明らかになりました。ここで3年間の成果をまとめて報告します。

結果と考察

ヒメサユリはかなり幅広い標高や土壌乾燥度に生育できることがわかり、明るいとところが好きということもわかりました。また豪雪地に多いのは、雪食崩壊地の生成によってヒメサユリの生育に適した明るい環境を断続的に供給されるからなのではと考えました。ヒメサユリの分布を決めているのは雪の量だけでなく雪食崩壊地のできやすさの方だからかもしれません、ヒメサユリを守る上では自然が作り出すこのような自生地の存在こそが重要です。

一方、分布域内では、人為的に明るい環境を作れば比較的容易にヒメサユリを増やすことが可能ですが、人為的な環境ではヒメサユリの虫害が大きくなる傾向にあります。

「只見町周辺河川におけるヤマメ・イワナの分布特性の把握と環境教育・ESDに向けたフィールド教材開発の試み」

東北工業大学 佐藤 源亮 さん



目的

只見町の周辺には、只見川、伊南川、黒谷川、田子倉湖といった溪流域から本流、ダム湖からなる特色豊かな水系が見られ、それらの水系にはイワナ、ヤマメの固有の個体群が生息しており、ある特定の範囲にこれだけ多様な水系やイワナ、ヤマメの個体群が分布しているのは世界的にも珍しいと思われる。

本研究では、只見町周辺の特徴的な5つの水系において、イワナやヤマメなどの魚類の特性やこれらの生息環境の多様性の把握を試みるとともに、各個体群・水系の特徴を活かした環境教育・ESD（持続可能な開発のための教育）プログラムの開発を目指した。

結果と考察

今回の調査で、只見町周辺の河川湖沼を、イワナ・ヤマメ等の特性に基づいて5つのゾーンに区分できる可能性が示唆された。各ゾーンに生息するイワナの個体群を持続的な資源として活用していくためには、生育環境、産卵環境を保全する必要がある。特に資源が減少しているゾーンについては、町内の学校等でイワナの人工発眼卵孵化放流プログラムを実施することが望まれる。エコツーリズムやレクリエーションフィッシングの視点からは、5つのゾーンは短時間で異なる生育環境に触れることができ、地理的利便性を備えた野外ミュージアムと捉えることができ、今後はこの点をアピールしたい。

「只見のアリ類

—アリ相の特徴と他地域との類似性—

茨城大学理学部 北出 理 さん



目的

アリ類は家族集団で生活する「社会性昆虫」であるという大きな特徴を持つが、さまざまな環境に生育し、私達の目に触れる事が多い、生活に最も身近な昆虫のグループの一つである。日本からは約290種のアリが知られており、全ての種を網羅した図鑑や画像データベースが整備されていることから、生息環境を評価する指標生物としても有用である。

只見町はブナ林や多雪による雪食地形等に代表される特徴的な自然環境をもつ。この地域の生物多様性の特徴を把握する上での基礎データとすること、その保全と教育的な利用を可能にすることを旨として、只見町のアリ類の調査を行い、標本の整備を行った。

結果と考察

町内の6箇所でありを採集し24種のアリが採集され、福島県から初記録のアリも採集された。

只見町のアリ類の組成の全体的な傾向を見ると、種類はやや少なめであり、特にシリアゲアリ属やオオアリ属などの樹上営巢性じゅじょうえいそうせいの種が少ないという特徴がある。これは本地域が多雪地域であることと関連がある可能性が考えられる。

只見スキー場や蒲生地区あたりこの森など6箇所の調査地点で種類が最大であったのはブナセンター敷地の草原であり、他の調査地点では見られない種が多かった。低標高で河川沿いの温暖な環境が多くの種の生息を可能にしていることが示唆される。

さらなる地域の発展を願って

平成27年 只見町新年交歓会

1月5日、季の郷湯ら里を会場に平成27年只見町新年交歓会を開催し、町内の事業所や団体などから約140名が出席されました。

目黒町長はあいさつで昨年登録された只見ユネスコエコパークを改めて町民一同で喜ぶとともに、自立したまちづくりを進めていきたいと抱負を述べました。

交歓会では只見松楓会の謡の披露や、つくし会のアトラクションで新年の門出を祝いました。



▲発展を願って万歳三唱

只見の魅力を再発見!

おもしろ学プレ検定を実施!!

1月10日、各振興センターを会場に只見おもしろ学のプレ検定を行いました。プレ検定とは、「只見おもしろ学検定」の本実施に向けて受験者の皆さんの意見を聴くため試験的に行うものです。

実施した検定は初級・中級・上級の3つのクラスで問題数は50問。全ての問題は只見おもしろ学ガイドブックより出題されます。

本試験は今年行う予定です。只見の知識は誰にも負けないという方、ぜひ検定を受けてみてください。



▲プレ検定に挑む参加者

今年1年の無火災を願って

平成27年 消防出初め式

1月11日、朝日振興センターで平成27年消防出初め式を行い、関係者と消防幹部団員が出席しました。

昨年町内では、3件の火災が発生しておりますが、出初め式では今年度の無火災を願い無火災祈願祭を行いました。

冬期間は暖房器具など火を使う機会が多い時期ですので、町民の皆さま一人ひとりが「火の用心」を心掛け火災の無い安心な町づくりに努めて頂きますようお願いいたします。



▲無火災を祈願する消防団員

充実した2年間

人材育成5期生 閉講式

1月13日、高校生を対象にした「ふるさと只見・人材育成講座」第5期生の閉講式が只見振興センターで行われました。5期生は1年目は町外で講座を受け接客などを学び、2年目は只見町の文化や自然について学んできました。

受講生はこの講座を終え、「知らなかった只見の良さを学ぶことが出来良かった」などと話してくれ、どの生徒もいつかはこの只見町のために何か貢献したいとも話してくれました。



▲受講生は講座を終え大きく成長しました

朝日小学校が県内3校目 ユネスコスクールに認定

朝日小学校が県内3校目

1月29日、朝日小学校にユネスコスクール認定証が授与されました。

ユネスコスクールは現在、世界で一万校以上、国内でも800校以上が認定されており、県内では朝日小学校が3校目となります。

ユネスコスクールとなった朝日小学校は、これから只見町の良さを世界に発信するため、只見の自然や伝統・文化などについて学び、加盟する世界中の学校と交流の機会が増えることなども期待されます。



▲会津ユネスコ協会宗像会長から認定証を受け取る荒川校長(右)

子育て講演と楽しいダンス

子育て講演と楽しいダンス

1月18日、朝日振興センターで親子教室が行われました。今回は子育て中の保護者の皆さんに、一番大切な子どもの心を育てるお話を、アフリカのルワンダ共和国から福島市に移住されているマリールイズさんに話して頂きました。教育や生き方についての貴重な話のあとには、只見町に何度かダンスを教えに来ている西郷葉月先生のダンス教室が行われ、参加者は親子で楽しい時間を過ごしました。



▲楽しくダンスを踊り記念撮影

警察署長感謝状を授与

民生児童委員協議会

只見町民生児童委員協議会は、一人暮らしの高齢者を狙った振り込め詐欺などの被害を防止するための活動の一環として啓発はがきを配り、その取組みへの感謝として12月26日南会津警察署で警察署長感謝状の贈呈式が行われました。

民生児童委員の皆さんはこの他にも、カルガモクラブなど子ども達の活動にも積極的に参加して頂くなど只見町のために様々な活動を行って頂いています。



▲感謝状を受ける会長の横山圭子さん

けん玉48個を町に寄附

認知症予防に効果的

このたび、けん玉48個を有限会社ふじたさんより寄附して頂きました。社長の藤田正二さんは、テレビでけん玉が認知症の予防に効果的というのを見て、老人保健施設などの高齢者の方にもけん玉で遊んでもらい、懐かしい遊びをする事で少しでも喜んでもらえればという思いから寄附をされました。

寄附して頂いたけん玉は、只見ホームやこぶし苑、さくらの丘みらいなどで使わせて頂いております。



▲昔を思い出してけん玉を楽しんでいます



▲アルペン、クロスカントリーで好成績を残した選手の皆さん
(写真奥左から)山内花さん、鈴木菜美さん、渡部賢太郎君
(写真手前左から)目黒裕大君、鈴木遥大君、鈴木道也君

只見中学校 スキーで東北大会！ そして全国大会へ出場!!

1月の県中体連スキー競技大会で好成績を残した只見中学校の生徒6名が岩手県で開催された東北大会に出場し、さらに鈴木道也君、目黒裕大君、渡部賢太郎君がアルペンで、山内花さんがクロスカントリーで全国大会に出場します。スキー部部長の鈴木道也君は「全国大会は初出場なので緊張しますが、上位入賞を目指して、そして今まで指導してくれた人達に感謝の気持ちを込めて滑りたい」と大会への意気込みを話してくれました。全国大会は青森県で2月5日～8日まで開催されます。

若林龍司さん(布沢) 国体に初出場!!

1月に猪苗代で開催されたスキーの国体予選で好成績を残した若林龍司さんが、2月20日～23日まで(スキー競技)群馬県で開催される「2015ぐんま冬国体」に出場します。龍司さんは一昨年の夏、群馬から母の実家がある布沢地区に転入され、現在はヒロタテクノに勤務しています。また、只見町スキーチームに所属し、指導者として子ども達にもスキーを教えています。国体出場の意気込みを聞くと「自分が滑る事でスポ少の子ども達の刺激になればと思います。コーチでもあり選手でもあるので子ども達と良い刺激を与えあう関係でこれからも頑張りたい」と話してくれました。



▲勤務先のヒロタテクノの前で1枚!
夜勤明けに只見スキー場で練習するなど好成績を残すため頑張っています



▲普段はなかなか除雪が出来ない所も、若い皆さんの力でとてもきれいになりました

只見高校、勿来工高の野球部員 力を合わせ除雪ボランティア

1月6日、只見高校と勿来工高の野球部員など約50名が明和地区で除雪作業を行ってくれました。

勿来工高側が只見でのボランティアを希望し、只見高校の生徒達も以前から地域の人達の為に何か出来ないかという思いがあり今回2校が協力しての除雪ボランティアとなりました。

勿来工高生は森林の分校ふざわに宿泊し、翌日も明和保育所などの除雪を行ってくれ地域の方からは多くの感謝の声が聞こえました。

－南会津ふるさとワークステイ事業を実施しました－

只見町de農活体験!

南会津農林事務所では、南会津地方で就農や移住を検討している首都圏などの方が、滞在しながら農作業を手伝い、かわりに受入れ農林家が宿泊と食事を提供する「南会津ふるさとワークステイ事業」を平成24年度から行っています。

本事業をきっかけに、就農や定住化につなげ、南会津地域における担い手の確保や農村地域の活性化を図ることを目的としています。

今年度参加された方は、南会津郡全体（下郷町・南会津町・只見町）で17名12組で、そのうち、只見町では2名の方が農作業の体験をしました。

参加者のみなさんは、受入農家の指導のもと、トマトの栽培管理や、舞茸採り、畦道の雑草刈りなどの農作業を行いました。



トマトの栽培管理をする参加者

参加者の声

只見町叶津の佐藤泉太さん宅に4泊5日滞在し農作業体験をした北原さん

佐藤さんからは、草刈機の取扱い方、舞茸の採り方など丁寧な指導のもと、農作業の手伝いをしました。また、近所の方と日々の暮らしについて話す機会もあり、柏市では得られない貴重な体験を得ることができました。

稲刈りには時期尚早とのことで残念でしたが、黄金色に輝く稲田と山河の自然が調和した美しい只見町が第2の故郷になった気持ちです。



草刈りをする北原さん

受入農家の声



受入農家 佐藤さん

北原さん、本当にありがとうございました。本当にお疲れ様でしたの言葉が出てきます。

慣れない作業にも関わらず、一生懸命楽しみながらの仕事ぶりに感心し、その後も「只見にまた」と言って顔を出してくれて、とても嬉しかったです。

今後も楽しみながらワークステイを続けていきたいと思えます。



受入農林家さん、募集中です!

～ワークステイ参加者を受け入れてみませんか?～



現在、只見町では、3戸の受入農家さんにご協力いただいています。

来年度に向けて、3月上旬まで受入農家・林家さんを募集していますので、興味のある方は農林事務所までお問い合わせください。

そもそも、受入農林家って何をするの?

- ・農林業についての知識や技術を参加者に教える
- ・南会津の暮らしを伝える
- ・宿（布団等の寝具）と食事の提供

費用は発生するの?

仕事を手伝わってもらうかわりに、宿と食事を提供するの、お金のやりとりは発生しません。

なお、参加者は全員、国内旅行傷害保険に加入します。



受入農家の目黒さん

広報たのみ診療所

朝日診療所
医師 榎田啓十



「笑いの力が病気をなおす?!」

連日厳しい寒さが続いておりますが皆様いかがお過ごしでしょうか。

昔から「笑う門には福来る」「笑いは百薬の長」などといわれてきました。今回は笑いがもたらす健康効果についてお話ししたいと思います。

「笑いの効用」は、まず何と言っても免疫力をアップすることです。あまり知られていませんが若くて健康な人の体にも1日300～5,000個のがん細胞が発生しています。これらのがん細胞や体内に侵入するウイルスなど退治しているのがリンパ球の一種であるナチュラルキラー細胞(NK細胞)です。人間の体内にはNK細胞が50億個もあり、その働きが活発だとがんや感染症にかかりにくくなると言われています。私たちが笑うと、免疫のコントロール機能をつかさどっている間脳に興奮が伝わり、情報伝達物質の神経ペプチドが活発に生産されます。「笑い」が発端となって作られた「善玉」の神経ペプチドは、血液やリンパ液を通じて体中に流れ出し、NK細胞の表面に付着し、NK細胞を活性化します。その結果、がん細胞やウイルスなどの病気のもとを次々と攻撃するので、免疫力が高まるというわけです。逆に、悲しみやストレスなどマイナスの情報を受け取ると、NK細胞の働きは鈍くなり

免疫力もパワーダウンしてしまいます。ただ、免疫力は強ければよいものではありません。リウマチや膠原病など自己免疫疾患と呼ばれる病気は、免疫システムが体に悪い影響のある物質だけでなく自分自身の体まで攻撃することで引き起こされます。近年の実験により、「笑い」にはこうした免疫システム全体のバランスを整える効果があることも明らかとなりました。つまり大いに笑えば、がんやウイルスに対する抵抗力が高まり、同時に免疫異常の改善にも繋がるのです。

他にも「笑い」によって、アトピー性皮膚炎他のアレルギーが改善したという報告や、糖尿病の食後高血糖を改善したという報告、ストレスを軽減したり脳血流を増加させ脳の働きを活発にする効果もあるようです。「笑い」の力のすごいところは、上記の変化が「笑い」のすぐあとに起きたことです。また声を出して笑わなくても、笑顔を作るだけでも同様の効果があることが分かっています。笑いは、即効性があり、いつでもどこでもできて、無料で、副作用なく気持ちがいい万能薬といえます。

「笑い」を日ごろの健康づくりに大いに活用し、いきいきとした人生を送りましょう!!

地域おこし協力隊として vol.8 只見町教育振興協力隊 中野 智子

『地域おこし』とは

初めまして。1月5日より只見教育振興協力隊として只見町教育委員会で勤務させて頂いております中野智子と申します。縁があって東京から只見に来ました。

まだ只見町に住み始めてからひと月もたっていませんが、東京と只見町の違いに驚くばかりです。町の皆様からは『雪が多くて大変なところでしょ』とよく言われますが、確かに雪は大変ですが、代わりに東京での通勤ラッシュや週末の人ゴミから解放されると思えば、只見町の景色の美しさの方が上回るように思います。

おそらく、どこにいても一長一短。雪が多いからこそ只見にはブナ林を始め貴重な動植物が多く在るのでしょうし、厳しい生活環境(不便)があったからこそ、知

恵と工夫が生まれ、多くの手仕事や文化が育まれてきたのではないのでしょうか。そして、そうした自然や生活の在り方が残っているというのは紛れもなく、今の都市部にはない“豊かさ”なのだと思います。これまで不利とされてきた部分に焦点をあて、そこにこそ価値があるのだということを改めて伝えることが、“地域おこし”の第一歩になるような気がします。

とはいえ、まずは今の町の現状をきちんと把握して、多くの方々の意見にも耳を傾けながら真摯に学ぶことから始めていきたいと思っておりますので、皆様どうぞこれから宜しく願い致します。



只見野鳥雑記 ④

ワシタカ王国・只見

福島県ではじめてイヌワシが繁殖したのは、柳津町・昭和村・会津美里町の境界にそびえる博士山とされています。博士山で最初にイヌワシを見つけたのは、イヌワシを専門に調査している民間団体、日本イヌワシ研究会の会員だった寺園昭宏さん(故人)でした。一九八四年七月二十九日、二羽のイヌワシが博士峠の上空を飛翔するのを発見したのです。当時、イヌワシといえば、めったに見られる鳥ではなく、それ以降、博士山での観察が継続して行われるようになりました。そして、一九九三年六月十七日、

二羽の幼鳥が巣立つのを、日本イヌワシ研究会の小島幸彦さんが確認しました。小島さんは、地形的な面から只見町がイヌワシの生息に適しているかと判断して、何度も通いつめ、とうとう繁殖を確認したので、博士山より一年早いわけですが、この記録は公表されずに今日に至っています。知られてしまうと、人が押しかけて育雛を放棄してしまうことがあるからです。小島さんは一九九四年六月にも只見町内で二回目の繁殖を確認しています。

日本イヌワシ研究会は、一九九六年七月、只見町を含む奥只見地域(新潟県旧湯之谷村、旧入広瀬村、旧大和町、福島県檜枝岐村)で大規模な合同調査を行い、二三つがいのイヌワシを確認しました。さらに

只見町には、イヌワシのほかにもオジロワシ、クマタカという大型の猛禽類が生息しています。さらにハチクマ、オオタカ、ハヤブサ、ミサゴ、ノスリ、サシバ、トビなどの中型の猛禽類、ハイタカ、ツミという小型の猛禽類も確認されています。



▲アオサギのヒナを襲うイヌワシ

森林総合研究所東北支所の由井正敏さん(当時)によって二羽のヒナの巣立ちが確認され、これをもって福島県におけるイヌワシ繁殖の公式記録となっています。しかし、その前年、イヌワシは只見町で繁殖していたのです。それは一九九二年六月一日の早朝のことでした。

当年生まれの幼鳥が四羽、一〜三歳の若鳥が三羽、合計三三羽も発見され、この地域が国内でも高密度の生息地であることがわかりました。全国でも約二〇〇つがい、五〇〇羽ほどしかいないとされるイヌワシが、これほど多く生息しているという事実は衝撃的でした。それまでは岩手県の北上山地や三重



▲絶滅危惧種のサシバ

ハイタカなどが好む生息地です。これら多種類の猛禽類が生息する只見町は、ワシタカ王国といってもよいでしょう。猛禽類のほとんどの種が絶滅する危機にあるといわれる現在、只見町にこれほど多くの種類の猛禽類が高密度に生息しているという事は、とりもなおさず、只見町の自然環境が多様で豊かであることを証明しています。

町民文芸



只見短歌会

十二月詠草

大塚栄一

指導

道の辺の零余子取りつつ確かめん一食分のポケットの重み
小倉キミ子

馬場 八智

百姓に生き来し我は被災地の農地復興の知らせに和む

目黒 富子

児童等の横断するを待つ車の運転席に赤き羽根見ゆ

新国由紀子

老衰の父親逝けどこれ程は泣かずと事故死の飼猫埋める

関谷登美子

家角の道に通ずる外灯も赤から青に変へるを告げ来し

渡部ゆき子

初雪の消えざるまへに降り継ぎし師走の大雪老らも知らず

古川 英子

透析の休みの夫は穏やかな日にシクラメン外に出しをり

五十嵐夏美

夫の墓の草の中より出でし石仏の姿に似れば供ふる

渡部ヨリ子

年の瀬の買ひ物の値は変らねど量少なきは世の情勢か

新国 洋子

遠く来し次男に声の出でぬ夫握りたる手をながく離さず

(出詠順)

只見俳句会

一月例会

目黒十一

指導

湯もみ唄澄むや上州冬の月
寒中やいとど賑ふ花の域
吉 児

美しき東京駅の小春かな
顔見世や同郷と言ふドライバー
礼

雪もよい石焼き諸の声遠し
香りなき室の花散る夕べかな
邦 男

エレベーター押し出され来て日記買う
鮎店の厚き湯呑みに年惜しむ
順 子

青空にふるさとの雪憂いたり
教え子の面影深し鍋囲む
信

母に似し妻の漬けたる鯿漬け
漆黒の闇夜の光や冬三日月
修 一

雪山に千本杉の連立す
屋根裏に音ガサゴソと雪の夜
リウコ

早朝の工事車雪を山と積み
荷箱よりポインセチアの色覗く
一 穂

寒波来る池の苔石青々と
熊野古道杖のひびきに照紅葉
都

飯鮎を漬け終わる夜の雪静か
行く年や日記に残る悔ゆる日も
敦 子

寒波来る怒濤のごとく襲われし
初日の出ブーツすこしくきつめにて
洋 子

今月の お知らせ

電話番号

総合政策課	財政係	☎ 82-5220
地域振興係		
総務課		
総務係		☎ 82-5210
職員係		☎ 82-5050
町民生活課		
税務係		☎ 82-5110
町民係		☎ 82-5100
保健福祉課		
保健係		☎ 84-7005
福祉係		☎ 84-7010
農林振興課		
農政係	林政係	☎ 82-5230
観光工商課		
観光係	商工係	☎ 82-5240
環境整備課		
地域整備係		☎ 82-5270
生活環境係		☎ 82-5280
会計室		☎ 82-5120
議会事務局		☎ 82-5300
農業委員会		☎ 82-5230
教育委員会		☎ 82-5320
学校給食センター		☎ 84-7180
只見保育所		☎ 82-2219
朝日保育所		☎ 84-2038
明和保育所		☎ 86-2249
朝日診療所		☎ 84-2221
(歯科)		☎ 84-2612
訪問看護ステーション		☎ 84-2130
こぶし苑		☎ 84-2101
只見振興センター		☎ 82-2141
朝日振興センター		☎ 84-2111
明和振興センター		☎ 86-2111

お知らせ

**自動車をお持ちの方へ
自動車の登録状況の確認を**

自動車税は4月1日(午前零時)現在の登録名義人である所有者に課税されますので、自動車の売買や転居等をされた場合は次のことにご注意ください。

手放した自動車の納税通知者が届きました。なぜでしょうか?

自動車税は、4月1日(午前零時)現在の登録名義人である所有者(割賦販売等で所有権が留保されている場合は使用者)に課税されます。そのため、移転の登録や抹消の登録が行われていないと、もとの所有者に課税されることとなります。

自動車を下取りに出したり、他人に譲ったりしたときには、必ず

運輸支局で移転登録または抹消の手続きをしてください。

転居して住民票は移したのに、自動車納税通知書が届きません。なぜでしょうか?

自動車税の納税通知書は、運輸支局に登録されている住所(自動車検査証に記載されている住所)に送付されます。

転居したときには、必ず運輸支局で変更登録の手続きをしてください。

車検切れとなり、使用していない自動車にも自動車税は課税されますか?

車検切れの自動車であっても、登録がされている限り自動車税が課税されます。

壊れて動かなくなったり、使用しなくなった車は運輸支局で抹消の手続きをしてください。

抹消された翌月から月割で課税されなくなります。既に年税額を納めている場合には、抹消した翌月以降の税金は還付されます。

※登録に関する手続きは、南会津自家用自動車組合や自動車販売店、整備工場等にお尋ねください。

▼問い合わせ

南会津地方振興局県税部
☎ 0244-62-5212
☎ 0244-62-5214

**自動車事故
被害者救済制度のお知らせ**

1. 交通遺児等育成資金の貸付

●対象者 自動車事故が原因で死亡又は重度の後遺障害が残った方の子で、中学校卒業までの方

●貸付金額

一時金：15万5千円
毎月：2万円

●利子 無利子です

●貸付条件 市町村民税が非課税または均等割のみ課税など

2. 重度後遺障害者への介護料支給

●対象者 自動車事故により「脳」・「脊髄」または「胸腹部臓器」に重度の後遺障害を持ち、自賠責保険の後遺障害等級が次に該当する方

I種(常時要介護)・・・
1級1号または2号

(平成14年3月31日以前の事故は1級3号または4号)

II種(随時要介護)・・・
2級1号または2号

(平成14年3月31日以前の事故は2級3号または4号)

●支給額
特I種(最重度)
68,440円

I種(常時要介護)
136,880円

税 今月の納期

2月25日までに
納めましょう

- 水道使用料(4期)
- 農集排使用料(2月分)

58,570円

108,000円

II種(随時要介護)
29,290円

54,000円

▼問い合わせ

独立行政法人自動車事故
対策機構 福島支所

☎ 024-522-6626
FAX 024-522-6627

お詫びと訂正

広報ただみ1月号の6ページ
平成26年度交通安全表彰者に誤り
がありました。正しくは、

○東北管区警察局長

東北交通安全協会長連盟表彰

只見小学校

○全国交通安全協会交通安全表彰章

「緑十字銅賞」表彰

大塚純二郎さん

となります。

お詫びして訂正いたします。

認知症予防講演会のお知らせ

次の日程で講演会を行いますので、ぜひご参加ください。

とき 3月11日(水)

午後2時～4時30分

ところ 季の郷 湯ら里 ゆきつばき

内容 認知症を予防するために日常生活で取り入れられることや、認知症を早期に発見するための方法などについて

講師 福島県立医科大学
神経精神医学講座 後藤 大介 先生

バス時刻表

〈明和方面〉

○布沢(大田発) 13時→坂田公民館13時20分→大倉13時30分→湯ら里 着13時35分
○梁取公民館発13時5分→塩ノ岐13時15分→二軒在家13時30分→小林13時40分→湯ら里 着13時55分

〈只見方面〉

○塩沢発12時55分→役場前13時15分→館ノ川13時20分→黒沢13時25分→樫戸13時30分→小川13時40分→黒谷13時45分→湯ら里 着13時55分
○黒谷入発13時45分→湯ら里 着13時55分

※バスをご利用される際は事前に保健福祉課保健係へご連絡下さい。

〈保健福祉課 保健係 ☎84-70005〉

町長の手帳

町長スケジュール 〈1月分〉

- 5日 辞令交付式、仕事始め式(広域消防署只見出張所、あさひヶ丘、役場本庁)、只見町新年交歓会
- 7日 年賀知事懇談会(福島市)、ふくしま緑の森づくり公社理事会(福島市)、県関係機関及び新聞社等年賀挨拶(福島市～8日)
- 11日 只見町消防団消防出初式
- 13日 ふるさと只見人材育成講座第5期生閉講式
- 14日 TNI工業表敬訪問(大田原市)
- 15日 只見町商工会新年懇親会
- 17日 只見ふるさとの雪まつり雪運搬開始式
- 22日 東邦銀行親和会新年会
- 25日 第42回只見毎日杯GS大会
- 26日 南会津地方環境衛生組合予算査定(下郷町)
- 28日 福島県町村会役員会(福島市)
- 29日 只見町議会1月会議、ユネスコスクール認定証授与式(朝日小)
- 30日 職員退職者連盟只見支部総会
- 31日 自然首都ただみ学術調査助成金成果発表会・懇親会

「地方創生」

早いものではや1月も終わり、昨年12月にすでに多くの積雪があったことも影響し、今冬は豪雪対策本部の設置となりました。「冬来たりなば春遠からじ」とは言え、1日も早い陽春を待ちわびながらの雪との戦いです。

そのような中、雪まつりに向けて大雪像づくりが着々と進んでいます。今年は東京駅開業100周年に合わせ、只見線の早期復旧復興を願ってメイン雪像が東京駅となりました。雪の中、建設に携わる皆さんは大変ご苦労様ですが、今年も多くの人達に喜んでもらえるものと思います。

さて、今年は戦後70年の節目にあたり地方創生「元年」とも言われています。私たちが向き合うのは人口減少とグローバル経済による較差社会。政府も地方創生と大声を上げていますが、誰の為のそして何のための地方創生なのかそこをよく見極めなければなりません。年代の違い、業種の違い、職場の違い、地域の違いによって人々の見方、考え方に違いがあります。様々な意見や考え方を集約できる話し合いの場、参加しやすい場づくりに工夫をこらし、真の意味での町民参加の町づくりができるようにする必要があります。

只見町長 目黒 吉久

町民の消息

(12月26日～1月31日届出分)敬称略

■おくやみ申し上げます

吉津 純一	88歳	長浜
大竹 カツイ	92歳	布沢
五十嵐 里美	86歳	福井
角田 セツ	94歳	小林

※「町民の消息」欄に掲載を希望されない方は、届出のときにその旨をお伝えください。

人のうごき

平成27年1月1日現在

人口	4,534 (-14)
男	2,196 (-11)
女	2,338 (-3)
世帯数	1,795 (-2)
高齢化率	43.4%

※高齢化率とは、65歳以上の人が人口に占める割合です。

転入 5 転出 9 出生 1 死亡 11

▽今年には本当に凄い雪です。除雪のために実家にある2階建ての車庫の屋根に上がりましたが、例年なら屋根に上がってまでの除雪は必要ありません。今シーズンはもうドカ雪が降らない事を祈ります。

▽そんな中、只見町の中学生と社会人がスキーで全国大会や国体に出場することは個人的に非常に嬉しい出来事です。これだけ雪が降る只見町。雪国なんだからやっぱり雪の競技で活躍して欲しいという思いがあります。選手の方皆さんには大きな舞台でもぜひ好成績を残して欲しいと思います。

(吉津)

あとがき

1、ゆたかな緑ときれいな水をまもり美しい町をつくりましょう

1、互いに助け合い親切をつくり楽しい町をつくりましょう

1、産業をおこしみんなで働ける豊かな町をつくりましょう

1、教養を深め心と体をきたえ文化の町をつくりましょう

1、きまりを守り良い風習を育て住みよい町をつくりましょう



生涯学習推進員
湯田 千穂

明和振興センター
図書室 ☎86-2111

おすすめ新着図書

★今日から怒らないママになれる本!



川井 道子 / 著
(学陽書房)

「育児に悩んでいて思うようにうまくいかない。」とされている方、ぜひこの本を読んでみてください。もしかしたら、他の育児書にも書かれているようなことだったりするかもしれませんが、著者自身の経験も書かれているので、実践できることが多く、分かりやすいと思います。

もちろん、パパにもおすすめです。子供への対応、育児に疲れる妻の心理を理解するためにも、この本は役に立つと思います。

★紙の月



角田 光代 / 著
(角川春樹事務所)

映画化もされた話題作! 銀行から契約社員の主婦が1億円を横領した。正義感の強い彼女がなぜそのようなことをしたのか? 平凡の主婦の人生が、信じられないスピードで狂ってしまった内容です。

★その他、別棟、図書室(旧支所)にもたくさん本を置いております。利用時間は午前9時から午後4時までです。(土日祝日は閉館)ぜひご利用下さい。リクエストも随時受付しています

家の中を走り回るネズミ！



夜、自宅内で天井裏を走る足音がしたり、カボチャの種や豆などが、カゴ、リュック、衣服のポケット、靴、洗濯機、こたつの中などあらゆる場所から出てきたりするため、センサーカメラを設置してみたところ、ネズミが撮影されました。

通常は野山で生活しているネズミですが、紛れ込んだ部屋の中は、暖かくて餌もたくさんあり、きっと居心地がよかったです。

このネズミはヒメネズミ (*Apodemus argenteus* げっしもく 齧歯目ネズミ科) かアカネズミ (*A. speciosus* げっしもく 齧歯目ネズミ科) と考えられます。

この兩種は、日本固有種で低地から高山帯までの山林に生息していて、夜行性です。外見はよく似ています。主な違いはヒメネズミの方が小型で体長に比べて尾が長く、アカネズミの方が赤味が強い点です。山林で生息しているネズミが家の中に紛れこむのも、周囲を山に囲まれた只見町ならではのことでないでしょうか。

ヒメネズミもアカネズミもエサは昆虫やドングリなどの種子です。秋にはエサがなくなる冬に備えて種子を地中に埋めて貯蔵する貯食行動をとります。家の中に隠されていた種子もこの行動であると思われます。あちらこちらに埋めているため、時には埋めた場所を忘れてしまうこともあるようです。その種子が春になり発芽する可能性もあり、ネズミが運ぶことで種子の散布にも一役かっていると考えられています。

企画展示

「季節とともに生きる－只見の野鳥とその生態－」

期 間：1月17日(土)～4月19日(日)の期間で開催

ブナセンター講座

「森をつくる鳥たち－鳥と果実の共進化－」

日 時：3月7日(土) 13:30～15:00

講師：上田 恵介 氏(立教大学理学部生命理学科教授)

自然観察会

「上田先生と歩く！冬のブナ林」

日 時：3月8日(日) 10:00～12:00

冬のブナ林には、どんな鳥が生息しているのでしょうか？野鳥の観察も行います！

詳しくは、
只見町ブナセンター
までお問い合わせ
ください